

自尊感情に及ぼす被服に関する一考察

神谷かつ江

1 研究の目的

対人関係の不良や適応障害など、いわゆる心の悩みの故に学生相談室を訪れる女子学生（以下来談者という）たちに、共通してみられた特徴のひとつに「装う」、「着飾る」、「化粧する」など自己の外観を整えることに無関心な反面、人目を気にしたり、他人の評価に絶えず気を配るという矛盾した現象、つまり自分を過小評価したり、自分に自信が持てないなど自尊心の低さを肯定させるような傾向がみられた。

そこで、青年期女性の被服の実態を知り、検討を加える中で「自尊心の低い人ほど、個性を過小評価した被服行動をとりがちである」という仮説を立証し、更にその結果を学生相談の実際に役立てたいと考え研究を始めた。幸い若干の成果が得られたのでその一部を発表する。

なお、ここにいう被服とは、衣服より広い意味、すなわち帽子、靴など付属物を含めたからだのすべての部分をおおうものをさす。

2 被服のもつ意義

人は好むと好まざるとにかかわらず、さまざまな他人とのかかわりの中で生活を営んでいる。その行動は単数ないし複数の他人に影響を与える一方で、それら他人からも影響を受けている。各人がまとう被服はこのような対人関係や対人交渉の場において重要な一因を成していると思われる。

いうまでもなく被服は、他の人間をどのように理解・判断するかという対人認知—つまりパーソナリティの認知ないしパーソナリティの印象形成に少なからざる影響を与えていると同

時に、着用者の人的魅力性を高めたり、低めたりする対人魅力とも深い関係をもっている。このような対人認知や対人魅力のいずれもが、被服という外観の手がかりにもとづいてなされる他人の特性帰属と関係する一方、人と人との行動のやりとりであるところの社会的相互作用とも関係する。つまり被服には、その人が過去の学習を通して培ってきた何らかの象徴的意味を伝達することにより、社会的相互作用を維持ないし促進させる力をもっている。

そればかりか、無言の言語ともいえるこれら被服は、当然に仲間集団への帰属や受容を通してアイデンティティの獲得をめざす青年期の若者にも影響を及ぼしている。というのは、被服が自己像（self-image）の一部を形成していると解されるからであるが、わけても、青年期は性的成熟という質的变化を伴う。自らの身体像が、成人男女の身体に近づきつつあることへの戸惑いや喜びを感じずる一方で、青年に自らの性にもとづく役割意識や、大人になるという自覚をもたらすなど、新しい自己を形成する契機になっていると考えられるからである。

いずれにしろ上述したように、青年期の若者たちに及ぼす被服の持つ意義および果す役割は大きい。

3 研究の方法

そこで本研究では、被服に対する態度や価値観等とかかわりあいをもつであろう被服関心度を明らかにすることを第1の目的とし、具体的には主成分分析法を用い、そこに内在する因子を抽出することにした。というのは被服関心度を理解することは、被服行動における生き方、すなわち適応への動機づけが解明できると考え

たからである。

Erikson (1954) は、青年期の心理社会的発達課題を自我同一性の確立にあるとしている。自我同一性が得られるというのは、自我が特定の社会的現実の枠組みの中で定義されている自我へと発達しつつあるという確信—社会とのかかわりの中での特定の役割・価値観の達成を通して獲得されるところの自己価値についての確信——をさすのであるから、それは確証された自己評価、いわゆる自尊感情 (self-esteem) の発達であるともいえる。

さてその自尊感情であるが、それは人生初期における濃密な母子関係を通して得られた安定した自己尊重の感情であり、学校や集団社会における親以外の他人との交わり経験の中で自己の状況を評価したり、その結果を予測するという認知能力と密接に結びついて発達していくものと解される。従って自尊感情の高い子どもは環境に積極的に働きかけていくことになるのであるが、その場合における被服との関連について、James (1890) の考え方を引きついで Cooley (1902) は、他者が自分にい込んでいるであろうイメージを受容する過程で得られる鏡映的自己には、*「装う、・着飾る、*という着装行為が常に付随してくるというのである。

そこで筆者は、自己概念の評価的側面である自尊感情を測定し、そこに内潜する因子の抽出を第1の目的としたのに次いで、先に行っている遠藤辰雄ら (1974) の研究結果との比較における妥当性の検証を第2の目的とし、更にその第3として自尊感情と被服関心度との関連を検討することにした。というのは、自尊感情の高い人は内的安定度が高く、柔軟性に富み、容易に自己を受容できるので、対人関係においても不安緊張の低いことが認められているのに対して、自尊感情の低い人の場合は劣等感などにさいなまれ、不適応に陥る恐れが大きいのではと思われたからである。

ここに参考までに自尊感情に関する先行研究の結果の若干についてその概要を記しておく。

①工藤・西川 (1983) は孤独感の高い人は自尊感情が低いことを明らかにした。

②水野 (1976) は大学生を対象に調査して、自尊感情は男子の方が女子よりも有意に高く、自尊感情を構成する因子として社会的承認と自己確信の存在を指摘している。

③田中 (1973) は身体像との関係から、ネガティブな身体像の持主ほど自尊感情が低いことを報告している。

4 調査の方法

平成3年7月、東海女子大学・同女子短期大学の1・2年生250名を対象に質問紙法により調査した。

使用した質問紙の内容は次の通りである。

(1)被服関心度について(附表1)

このことについては、神山進 (1983) が Creekmore (1971) の被服行動質問表をもとに作成した被服関心度を用い、48項目それぞれについて、*「まったくその通り、から「まったくあてはまらない、までの5段階尺度で評定を求めた。*

(2)自尊感情について(附表2)

自尊感情の測定は、遠藤ら (1974) が Janis の尺度をもとに作成したものをそのまま用い、23項目それぞれについて、*「非常にしばしば思う、から「ほとんど思わない、までの5段階尺度で評定を行った。*

5 調査の結果

1)被服関心度の主成分分析の結果

自尊感情と被服因子とのかかわりをみるために、被服関心度の因子を抽出した。主成分分析法で因子を抽出し、因子構造の単純化を図るためにバリマックス法による因子軸の回転を行った。

固有値2.00以上という基準を設け、4因子を抽出した。因子負荷量が高い項目順にソーティングを行い、各因子の解釈を試みた。Table 1 に示すように、第1因子で高い負荷量を示した項目は、*「服装に関する新しい情報を得るため、*

Table 1 被服関心度の因子構造

項 目	因 子				
	I	II	III	IV	
・服装に関する新しい情報を得るため、私は雑誌や新聞を読む。	.74782	.18696	.18487	.01884	
・たとえ友人の誰もが無関心であり、また自分自身して着用したいと思わなくても、何が新しい流行の服なのか知りたいと思う。	.72541	.16589	-.02005	.20257	
・私は、新鮮なファッションを求めて近くの町にでかける。	.68171	.03330	.30203	.03464	
・新しいファッションが市場に出る時、私はそれらをまっさきに採用しようとする。	.67799	.03523	.02586	.26718	
・私は、洋服ダンスに最新スタイルの衣服をそろえるように心がけている。	.65682	-.00103	.07006	.19021	
・どのようにアクセサリーをくみあわせれば自分を魅力的にできるかを知るため、私は店にならぶアクセサリー・コレクションを研究する。	.46353	.07083	.45240	.10746	
・特定の布の風合、例えばソフトな、毛羽だった、こしのつよいなめらかな服について、特に自分が愛好しまた買いたいと思うものがある。	.07281	.72423	-.01054	-.00823	
・衣服の肌ざわりは、私にとって重要である。	.03396	.72327	.15943	-.07347	
・私は、生地 of 風合に非常に敏感である。	.03744	.65420	.07111	-.08935	
・私は友人と、お互いが着用している衣服の似合いのよさについて話しあう。	.25169	.59253	.32022	.06662	
・衣服を選ぶ場合、服のシルエットからそれがどのような素材でできているかを考える。	.16383	.54515	.19878	.00560	
・私は、衣服が快適でないならばいらだつ。	.16560	.50694	.22400	.08303	
・自分が最も気に入っている衣服を着ている場合とそうでない場合とでは、自分の気分やとる行動にちがいをかんじる。	.08511	.20328	.65056	.06264	
・私は、お気に入りの通学服を着る時、強い自信を感じる。	.14526	.02663	.62890	.10297	
・私は、格別の衣服を着る時には、愛想よくまた開放的になる。	.07478	.27265	.61609	.12062	
・ある種の衣服は、私に一層の自信を感じさせてくれる。	.19980	.05772	.60261	.04727	
・私は自分の気分を高めるために衣服を買う。	.39938	.19845	.44162	.05441	
・いろいろな衣服とアクセサリーについて、それらをどのようにくみあわせた時どのような効果が出るかを研究することは興味深い。	.38540	.29373	.38695	.03624	
・私は、たとえ似合いそうにないものであっても、学校の仲間たちの間で流行している衣服を着る。	.22291	-.07478	.00388	.75481	
・私は、たとえ似合いそうにないものであっても、多くの人が着用している衣服を着る。	.04195	-.11323	.11572	.75220	
・私はグループのなかで仲間意識をもつため、他の人々と同じような服装をするよう心がけている。	.18677	.11278	.04382	.69918	
・新しい衣料品を購入する場合、私は友人が着用しているものと似たものを買うように心がけている。	.06612	.03316	.11795	.68328	
・友人の結婚式等で、もし自分のもっている衣服と一緒に招待された友人が着るだろうと思われるものちがったタイプなら、友人にあわせた新しい衣服を購入する。	.09942	-.10753	-.01769	.48728	
	寄与率(%)	18.5	8.4	6.6	4.4
	固有値	8.699	3.931	3.112	2.072

数値は因子負荷量 .400以上のものをイタリック体で示す

新聞や雑誌を読む、何が流行なのか知りたい、新しいファッションが市場に出るとき、私はそれらをまっさきに採用する、などであった。これは被験者たちが被服行動に積極的に働きかけ、個性や似合いのよさを反映させている結果と考えられる。従ってこの第1因子を個性重視因子と命名する。第2因子で高い負荷量を示し

た項目は、衣服の肌ざわりは私にとって重要である、私は生地 of 風合に敏感である、私は衣服が快適でないといらだつ、などで、これは被服行動に対する品質や着心地のよさを反映すると考えられるので、この因子を素材重視因子と命名する。第3因子で高い負荷量を示した項目は最上の通学服を着ている場合とそうでない

Table 2 自尊感情の因子構造

項 目	因子				
	I	II	III	IV	
・他の人があなたのことをどのように考えているかということが、あなたはどのくらい気になりますか。	.79132	-.28278	-.16976	.07661	
・あなたの友達や知りあいのなかにあなたのことをよく思っていない人がいるかもしれないと考えるとき、あなたはそのことをどのくらい気にしますか。	.76798	-.11737	-.18596	-.14031	
・あなたは、あなたの仕事ぶりや成績を審査する立場にある人の批評をどのくらい気にしますか。	.75132	.05527	-.04644	.06864	
・あなたは、自分が他の人々とどのくらいうまくやってゆけるかどうかについて気にしますか。	.67782	-.18943	-.27199	.08047	
・他の人々から、あなたが優等生とみられているか、あるいは劣等生とみられているかということについて、あなたは気になりますか。	.63557	-.24105	.00822	.22832	
・自分の意見に同意しない人々を説得している場合、あなたは自分が相手にどのような印象を与えているかということが気になりますか。	.61270	-.26165	-.13442	-.02999	
・他の人があなたと一緒にいることを好んでいるかどうかについて、あなたは気にしますか。	.59532	-.41094	-.19035	-.07559	
・とんでもないミスやばかにされるような大失敗をしでかしたとき、あなたはどの位長くそのことを気にしますか。	-.47356	.30840	.43258	.02232	
・あなたは、恥かしくてどうにもならないと思うことがありますか。	.46564	-.18002	-.42140	-.08767	
・あなたは、初対面の人に会ったとき、時間つぶしに話しをするのがむずかしいですか。	.05700	.75055	.10372	.01032	
・人といっしょにいるとき、あなたはどのような話題にしたらいかにについて、困りますか。	-.29566	.66164	.14755	-.03687	
・他の人々が観ているところで、ゲームやスポーツをやっており、それにぜひ勝とうと思っている場合、あなたはふつうどのくらいとり乱したり、まごついたりしますか。	-.23161	.58419	.01421	-.04703	
・あなたは、クラスや自分と同年輩の人々のグループの前でしゃべらなければならないとき、心配したり、不安に思ったりしますか。	-.27716	.58335	.18972	.13333	
・あなたは、人前を気にしたり、はにかみをおぼえることがありますか。	-.36513	.48322	.31635	.13497	
・あなたは、他の人々がすでに集って話し合っている部屋に自分一人ではいっていくような場合、気兼ねや不安をおぼえますか。	-.37316	.47031	.32012	.10547	
・あなたが知っている大部分の人々に比べて自分の方が劣っていると感じるようなことはありますか。	-.29988	.37003	.22017	.33208	
・あなたは、自己嫌悪をおぼえることがありますか。	-.18347	.25233	.76858	.03849	
・あなたは、自分の過誤(ミス)は自分のせいだと感じるのが、どのくらいありますか。	-.09415	-.05803	.69295	.04071	
・あなたは、自分について落胆するあまり、何が一体価値あるものだろうかと疑いをおぼえることがありますか。	-.16801	.22818	.67474	-.20061	
・あなたは、自分にはうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがどのくらいありますか。	-.12952	.25194	.50127	.36425	
・あなたは、自分が価値ある人間であると感じていますか。	-.01229	-.08369	.13492	.81298	
・一般に、あなたはいろいろの自分の能力についてどのくらい自信をもっていますか。	-.00463	.25571	-.13367	.71905	
・あなたは、自分の知っている人々がいつかはあなたを尊敬の眼をもって抑ぎみる日がくると確信していますか。	.15375	-.06181	.00044	.68920	
	寄与率(%)	32.1	9.7	6.2	5.8
数値は因子負荷量 .400以上のものをイタリック体で示す	固有値	7.393	2.232	1.416	1.341

場合とでは、自分の気分やとる行動にちがいを感ずる、私は最上の通学服を着る時、強い自信を感じる、私は格別の衣服を着る時には、愛想よくまた開放的になる、など、被服行動における気分や気持ちの高揚を反映する因子であると

考えられるので、この因子を心理的高揚因子と命名する。第4因子で高い負荷量を示した項目は、私はたとえ似合いそうにないものであっても、学校の仲間たちの間で流行している衣服を着る、私はたとえ似合いそうにないもので

あっても、多くの人が着用している衣服を着る、
 『私はグループのなかで仲間意識をもつため、
 他の人々と同じような服装をするようこころが
 けている』など被服行動において他人の目を重
 視し、仲間に迎合する社会的受容を反映してい
 ると考えられるので、この因子を同調重視因子
 と命名することにした。

2) 自尊感情の測定結果

被服関心度と同様の方法によって因子を抽出
 したところ、固有値1.00以上という因子が6個
 抽出されたが、そのうち固有値の高い4因子を
 採用することにした。更にそれを説明率の大き
 い順に、遠藤らの抽出した因子と対応させてみ
 たところ、23項目中、項目1・4・17の3項目
 を除き対応していることが判明した。(Table
 2)すなわち、第1因子は他者からの評価を気
 にする程度、第2因子は社会的場面における不
 安、第3因子は劣等感、第4因子は自己の価値
 観における因子であり、これは遠藤氏の命名し
 た因子と完全に合致していることが知られた。

3) 自尊感情の高低と被服関心度の関連について

自尊感情の高低により被服関心度がどう異
 なっているかを検証するため、自尊感情の高さ
 により3つのグループに被験者を分けた。すな
 わち23の自尊心測定項目を合計し、平均値と標
 準偏差 ($\bar{x} = 73.56$ S.D. = 7.5356) を求め、
 これをもとに平均より0.5S.D.以上高い被験者
 を自尊心高位群 (n = 70)、平均より0.5S.D.

以上低い被験者を自尊心低位群 (n = 71)、そ
 の中間を自尊心中位群 (n = 109) とした。

次に抽出した被服関心度の4つの因子ごと
 に項目を合計し、自尊感情の各群間で被服関心
 度に差があるか否かを検討するため、一要因の分
 散分析を行ったところ、被服の第1位に負荷し
 た項目合計の得点と、被服の第3因子に負荷し
 た得点に有意差がみられた。

その結果はTable 3に示す通りである。

これらのことから、自尊心の高い人は、被服
 行動に積極的に働きかけ、個性を重視し、被服
 によって心理的安定感を高めているのに対し、
 自尊心の低い人は個性を過小評価した被服行動
 をとり、心理的安定感も得られていないといえ
 そうである。

考察

本研究は、自尊感情と被服行動との関連を明
 らかにするために、主成分分析法により因子を
 抽出し、自尊感情の高さと抽出した被服関心度
 の因子との関連を検討したものであり、自尊心
 の低い人ほど、個性を過小評価した被服行動を
 とりがちであるという仮説を検証することを目
 的としたものであった。

そこで自尊感情に内潜する因子について考察
 してみる。自尊感情の因子を測定するために、
 主成分分析法により因子を抽出し、因子の大き
 い順に対応させていったところ、他者の評価を
 気にする程度が第1因子に、社会的場面におけ
 る不安が第2因子に、劣等感が第3因子に、自
 己の価値観が第4因子に抽出され、このことは
 遠藤らが男子大学生を対象に調査した結果と一
 致するものであり、自尊感情の項目は性差にか
 かわりなく安定した結果を生み出す項目である
 ことが検証された。

次に被服関心度について検討してみる。

被服関心度も前者と同様、主成分分析法によ
 り因子を抽出する方法を採用した。

その結果、第1因子に個性重視因子、第2因
 子に素材重視因子、第3因子に心理高揚因子、
 第4因子に同調重視因子の4つの因子が抽出さ

Table 3 個性に関する分散分析表

変動要因	平方和	自由度	平均平方和	F
自尊感情	177.686	2	88.843	3.926*
残 差	5589.278	247	22.629	
全 体	5766.964	249	23.160	

心理的高揚に関する分散分析表

変動要因	平方和	自由度	平均平方和	F
自尊感情	146.814	2	73.407	3.877*
残 差	4676.710	247	18.934	
全 体	4823.524	249	19.372	

* P < 0.5

れた。この4つの因子のうち、個性重視因子と同調重視因子は、仮説を検証するうえで重要な因子であると思われるので、この2つの因子について若干考えてみることにする。

まず個性であるが、辞書によると、「個性とは他と区別される個体、個人の特性」であると記されている。では被服における個性とは何であろうか。Lowe and Anspack (1973) は、「自分の選んだ服装をすることで他者から称賛を受け、誹謗や非難のような社会的制裁を経験することなく自由に着装していると感ずること」といい、また神山 (1990) は「社会の服装ルールから独立して自分にふさわしい装い方ができ、それが一貫していること」つまりその人らしい統一性や独自性が認められていることと述べている。

では、同調とは何であろうか、辞書によれば「調子を合わせること、同じ意見・態度となること」と記されているが、被服における同調行動とは何であろうか。同調行動が生まれる理由として、まず第1にモデリングによる学習が指摘できよう。それは人の社会的行為が本来模倣的性質をもつということにもとづく。すなわち幼児から成人への発達には、両親、兄弟姉妹、教師、友だちなどの模倣を通して促進される。またその心理的メカニズムは、自分の考え方、感じ方、振舞い方をモデルとして、役に立つ人に似せて形成する過程つまり同一視を得ることを目的としている。被服行動も同じような仕組みを通して習得されることが多く、特に児童から青年へと成長するに伴って、モデル自体が親、兄弟姉妹から友人、仲間へと移行し、そして仲間集団に似せて自分を装うことは、しばしばその仲間集団に受け入れてもらうことになると考えられる。

同調行為が生じる第2の理由として、Festinger (1954) の社会的比較理論があげられる。Festinger は、「人には自分の意見、能力を評価しようとする欲求があり、安定した評価を行うためには比較対象として自分の意見・能力に類似した他者を選択する」と仮定している。

また自分の意見・能力と類似した他者を選択

する傾向は、自分の意見や能力に対する判断の手がかりがないときに生じやすく(高田1974)、また自己像が不明確で能力が低いときなどにも生じやすいことが報告されている。(Gordon, B.F.1966) 従って自己評価が安定し、明確になってくると、自分と異なった意見をもった他人との比較が行われたり、自分よりすぐれた他人との能力を比較するという高揚的選択がなされるようになる。

被服の場合も同様で、他人の被服と自己のそれとの間に認められる一致や類似は、個人が周囲の人々を通して自分の存在を見出し、それに基づいて周囲の人々と積極的な接触を図ろうとする場合、重要な役割となることが指摘できる。

以上のことからわかるように、個性と同調という2つの因子は1つの連続線上に位置するが、全く性質の異なった行動様式として特徴づけることができる。ということは被服行動において、どのような態度や行動をとるかについては明確な客観的基準が存在せず、それが個人の自由意志に大きくゆだねられている行動領域であるからであろう。このことは Lowe and Buckley (1982) が「同調ないし社会化」という論文で指摘しているように、感情としての自由感(個性)と、行為としての同調傾向は、被服の選択や着用で独立次元を形成すると結論づけていることから理解可能である。

以上の諸点をふまえて、仮説を検証してみる。被服関心度の主成分分析で個性が第1因子に抽出されているが、このことは自尊心の高い人ほど、個性を重視した被服行動をとるということに加えて、被服によって心理的安定感を高めているが故と理解される。

このことを Sontag and Schlater (1982) の被服における自己近接の理論から補強しておきたい。氏がいう被服の自己近接とは、被服の自己に対する心理的近さを指し、「服によって気分が変わる、服は自分の表示である、服から自分を知る、などは、被服の近接度が高いことの証である」と解釈される。

神山・小島 (1986) らは、被服の近接度が高い人は色・柄・スタイルといった服のデザイン

要素を重視し、積極的に自己顕示を企てる傾向のあることを見だし、近接度の高い人は、被服を用いて自己の不確かさや不安定さを補おうとする傾向も観察されると報告している。すなわち被服には自己の顕示と自己の不安定さの補償という両面の働きがあって、自尊心の高い人ほど被服近接度も高く、被服や外観が少からざる影響を与えていると解釈することができるのである。

次に自尊感情の高低にかかわらず有意差のみられなかった同調重視について解釈を加えてみる。仲間集団への帰属や受容を通して、アイデンティティの確立をめざす青年期にとって、仲間集団との比較や仲間に合わせて自分を装うという同調行為の背後には、精神的孤立を嫌い、一緒にまとまりたいという所属感や安心感への強い願望によるものと思われる。

擬集性の強い仲間集団では、メンバーは相互に、それぞれの趣味、嗜好、考え方に強い関心を抱いている。従ってそのような、趣味、嗜好、考え方の表現手段である被服は、しばしばメンバー相互の対人交渉や対人関係に重要な役割を及ぼすと考えられる。人が集団を形成する時、形成された集団には独自のグループ・ダイナミックスが生じ、それが逆に個々のメンバーに強い力を行使する。すなわちそこでは個人の行動を抑え、一定の枠の中にメンバーの行動を同質化しようとする力も行使されるのである。このことは、おしゃれに関心が強く外観を整えている人は、同じような仲間のグループに所属し、おしゃれに関心が薄いなど外観をあまり気にしない人は、同じようにあまり外観を気にしないグループに所属している事実をみても理解できるであろう。

このように集団は個人にさまざまな影響を及ぼし強い力を行使する。被服の場合とて例外ではない。従ってその集団に受け入れてもらうには、被服や外観がどの程度同調しているかが問われてくるのである。

このようにみえてくると女子学生がグループを作り、そこで同調行動をとることも、存在感や所属感という根強い安定、安心感への願望があ

るからであり、その願望達成のために個性的な被服行動を志向するのだといえるのではなかろうか。更にそのことは、遠藤も指摘するように、自尊感情の低い人は環境に対して常に不安をもって反応しているので、被服行動に対して関心が及ばず、従って個性を過小評価した行動をとるのだといえよう。しかしその結論については留保したい。

以上自尊感情と被服行動との関連を述べてきたが、今回の調査では自尊感情の高い人の特性を明らかにすることはできたが、低い人の特性は明らかにすることができなかった。

今後は特に来談者の特性との関係を考慮に入れて検討したいと考えている。

おわりに

本論文の作成にあたり御指導をいただきました本学教授小林良夫先生、岩館憲幸先生に心から感謝の意を表します。

付表1 被服関心度質問項目

- 1 新しいファッションが市場に出る時、私はそれらをまっさきに採用しようとする。
- 2 ある種の衣服は、私に一層の自信を感じさせてくれる。
- 3 私は友人と、お互いが着用している衣服の似合いのよさについて話しあう。
- 4 私は、ある集まりに何を着ていくかについて、自分か決める前にいっしょに行く友人と打合わせをする。
- 5 衣服の肌ざわりは、私にとって重要である。
- 6 私は、なぜ人々がおもいおもいの衣服を着るのか知りたい。
- 7 はっきりしたシルエットをもたない薄物の透けたドレスやブラウスは、体をあまりにあらわにしすぎると思う。
- 8 私は、シーズンのすぎた衣服が正しく洗濯・保管されているかどうか気に配る。
- 9 シャツのすそがたえず出てうまくおさまらないような時、わずらわしさを感じる。
- 10 私は、ジッパーをしめわすれているような人を見た時、不快感を感じる。
- 11 私は、快適な衣服とそうでない衣服があるのはどうしてであろうかと思う。
- 12 特定の布の風合 例えばソフトな、毛羽だった、こしのつよいなめらかな服について、特に自分が愛好しまた買いたいと思うものがある。
- 13 私は、たとえ似合いそうにないものであっても、多くの人が着用している衣服を着る。
- 14 どのようにアクセサリーをくみあわせれば自分を魅力的にできるのかを知るため、私は店にならぶアクセサリー・コレクションを研究する。
- 15 私は、格別の衣服を着る時には、愛想よくまた解放的になる。
- 16 私は、洋服ダンスに最新スタイルの衣服をそろえるように心がけている。
- 17 私は、新鮮なファッションを求めて近くの町にでかける。
- 18 自分が最も気に入っている衣服を着ている
- 19 服装に関する新しい情報を得るため、私は雑誌や新聞をよむ。
- 20 私はグループのなかで仲間意識をもつため、他の人々と同じような服装をするよう心がけている。
- 21 私は、たとえ気に入った衣服であっても、快適でないならば着用しない。
- 22 私は、なぜ皆とはちがった衣服を着用する人がいるのか興味深く思う。
- 23 私は、胸もとの切り込みが深いドレスを着ている人を見ると恥ずかしさを覚える。
- 24 衣服を選ぶ場合、服のシルエットからそれがどのような素材でできているかを考える。
- 25 衣服を着てどのように見えるかは、私にとって重要である。
- 26 私は、あまりにも体にぴったりした衣服を着ている人を見るとなんとなく恥ずかしい。
- 27 私は衣服について、どのようにすれば最大限、時間、エネルギー、また金銭を節約できるかしたいと思う。
- 28 私は上腕を圧迫するような衣服を着用しないようにしている。
- 29 友人の結婚式等で、もし自分のもっている衣服と一緒に招待された友人が着るだろうと思われるものとちがったタイプなら、友人にあわせた新しい衣服を購入する。
- 30 いろいろな衣服とアクセサリーについて、それらをどのようにくみあわせた時どのような効果が出るかを研究することは興味深い。
- 31 私は、自分の気分を高めるために衣服を買う。
- 32 私は、普通の人が着ていない衣服を買うように心がけている。
- 33 人とはちがった衣服であるという気分になさせてくれない理由から、ある種の衣服を着用しないことがある。
- 34 私は、四六時中同じ衣服を着ているとたいくつする。
- 35 たとえ友人の誰もが無関心であり、また自分自身しいて着用したいと思わなくても、何

が新しい流行の服なのかをしりたいと思う。

- 36 私は、たとえ似合いそうにないものであっても、学校の仲間たちの間で流行している衣服を着る。
- 37 私は、衣服が快適でないならばいだつ。
- 38 誰かがあまり似つかわしくない服装で学校にやってくる時、私はなぜその人がそのような服装をしてきたのか知りたく思う。
- 39 私は、あまりに体をあらわにしすぎるような衣服を着ている人とは近づきになりたくない。
- 40 私は、たえず自分の靴をきれいにしている。
- 41 私は、衣服とアクセサリがうまく調和するように注意している。
- 42 私は、なぜ不謹慎な衣服を着る人がいるのか疑問に思う。
- 43 私は、なぜある種の衣服が他より一層気分をよくしてくれるか不思議に思う。
- 44 私は、生地や風合に非常に敏感である。
- 45 新しい衣料品を購入する場合、私は友人が着用しているものと似たものを買うよう心がけている。
- 46 新しい衣服を買う時、それを試着する前に似合いそうなアクセサリを探してみる。
- 47 私は、お気に入りの通学服を着る時、強い自信を感じる。
- 48 たとえ人目をひくにしても、私は人とはちがった衣服を着用する。

(注) 回答は、1：全くその通り 2：それに近い 3：どちらともいえない 4：あまりあてはまらない 5：全くあてはまらない、の5段階で求めた。

付表2 自尊感情質問項目

- 1 あなたが知っている大部分の人々に比べて自分の方が劣っていると感じるようなことはありますか。
- 2 あなたは、自分が価値ある人間であると感じていますか。
- 3 あなたは、自分の知っている人々が、いつかはあなたを尊敬の眼をもって抑ぎみる日がくると確信していますか。
- 4 あなたは、自分の過誤(ミス)は自分のせいだと感じる事が、どのくらいありますか。
- 5 あなたは、自分について落胆するあまり、何が一体価値あるものだろうかと疑いをおぼえることがありますか。
- 6 あなたは、自己嫌悪をおぼえること(自分で自分がいやになること)がありますか。
- 7 一般に、あなたはいろいろの自分の能力についてどのくらい自信をもっていますか。
- 8 あなたは、自分にはうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがどのくらいありますか。
- 9 あなたは、自分が他の人々とどのくらいうまくやってゆけるかどうかについて気にしますか。
- 10 あなたは、あなたの仕事ぶりや成績を審査する立場にある人の批評をどのくらい気にしますか。
- 11 あなたは、他の人々がすでに集って話し合っている部屋に自分一人ではいっていきような場合、気兼ねや不安をおぼえますか。
- 12 あなたは、人前を気にしたり、はにかみをおぼえることがありますか。
- 13 あなたは、クラスや自分と同年輩の人々のグループの前でしゃべらなければならないとき、心配したり、不安に思ったりしますか。
- 14 他の人々が観ているところで、ゲームやスポーツをやっており、それにぜひ勝とうと思っている場合、あなたはふつうどのくらいとり乱したり、まごついたりしますか。
- 15 他の人々から、あなたが優等生とみられているか、あるいは劣等生とみられているかと

いうことについて、あなたは気になりますか。

- 16 人といっしょにいるとき、あなたはどんなことを話題にしたらよいかについて、困りますか。
- 17 とんでもないミスやばかにされるような大失敗をしでかしたとき、あなたはどの位長くそのことを気にしますか。
- 18 あなたは、初対面の人に会ったとき、時間つぶしに話しをするのがむずかしいですか。
- 19 他の人があなたと一緒にいることを好んでいるかどうかについて、あなたは気にしますか。
- 20 あなたは、恥かしくてどうにもならないと思うことがありますか。
他の人があなたのことをどのように考えているかということが、あなたはどのくらい気になりますか。
- 21 自分の意見に同意しない人々を説得している場合、あなたは自分が相手にどのような印象を与えているかということが気になりますか。
- 22 あなたの友達や知りあいのなかにあなたのことをよく思っていない人がいるかもしれないと考えるとき、あなたはそのことをどのくらい気にしますか。
- 23 他の人があなたのことをどのように考えているかということが、あなたはどのくらい気になりますか。

(注) 回答は 1：非常にしばしば思う 2：かなりしばしば思う 3：ときどき思う 4：たまに思う 5：ほとんど思わない、の5段階で求めた。

引用文献

- Cooley, C.H. 1902 Human nature and the social order. New York: Scribner's.
- Creekmore, A.M., 1971 Method of Measuring Clothing Variables, Michigan Agricultural Experiment Station Project No.783, Michigan State University. East Lansing. pp.45-52.
- 遠藤達雄 1981 『アイデンティティの心理学』, ナカニシヤ出版
- 遠藤達雄・安藤延男・冷川昭子・井上祥治 1974 Self-esteem の研究 九州大学教育学部紀要, 18, 2, 53-65.
- Erikson, E.H. 1959 Identity and the life cycle. New York: International Universities Press. Inc.
(小此木啓吾訳編 1973 自我同一性 誠信書房)
- Festinger, L. 1954 A theory of social comparison processes. Human Relations, 7, 117-140.
- Gordon, B.F. 1966 Influence and social comparison as motives for affiliation. J. Exp. Soc. Psychol. Supplement, 1, 55-65.
- James, W. 1890 The principles of psychology. New York: Holt.
- 教育小辞典 1982 学陽書房
- 神山進 1983 「被服関心の概要とその測定—ギュレルの研究の追試—0」, 繊維製品消費科学, 24.No.1, January, pp.35-41.
- 神山進 1985 『被服心理学』 光生館
- 神山・小島 1986 「衣料品の美的/実用的特性にかかわる態度と行動の検討」, 繊維製品消費科学, 27, No.11.
- 神山・牛田・柘田 1987 「自己と被服との関係 (第二報)」, 繊維製品消費科学, 28, No. 2.
- 神山進 1990 『衣服と装身の心理学』 関西衣生活研究会
広辞林 三省堂
- 工藤力・西川正之 1983 孤独感に関する研究 (I)
—孤独感尺度の信頼性・妥当性の検討—実験社会心理学研究, 22, 99-108.
- Lowe, E.D., and K.A. Anspach, 1973 Toward A Definition of Freedom in Dress, Home Economics Research Journal, 1, No.4, June, pp.246-250.
- Lowe, E.D., and H.M. Buckley, 1982 "Freedom and Conformity in Dress: A Two-Dimensional Approach", Home Economics Research Journal, 11, No.2, December, pp.197-204.
- 水野正憲 1976 創造的態度・保守性・自尊心—青年期における一研究—岡山大学 教育学部研究集録, 44, 1-17.
- Sontag, M.S., and J.D. Schlater, 1982 "Proximity of Clothing to Self: Evolution of A Concept", Clothing and Textiles Research Journal, 1, pp.1-8.
- 高田利武 1974 社会的比較過程についての基礎的研究 実験社会心理学研究, 14, 132-138.
- 田中千代 1969 『服装事典』, 同文書院, p. 687.
- 田中康世 1973 中学生の Body image 日本教育心理学会第15回総会発表論文集